

11. 事後調査計画

11. 事後調査計画

11.1. 事後調査内容

本事業の実施に伴う環境影響は、事業計画に取り込んだ環境配慮と、それに加えて実施する実行可能な保全措置により回避又は低減できると評価されたが、予測には不確実性を伴うこと、また、保全措置の効果を確認する必要があることなどから、予測評価を行った項目は全て事後調査を行う。

事後調査の内容は、表 11.1-1～表 11.1-11 に示すとおりである。事後調査の内容は「環境影響評価項目の環境の状況」及び「事業の実施状況及び対象事業の負荷の状況」とし、各項目の調査内容は同表に示すとおりである。

なお、調査期間・頻度等は、現段階における想定であり、事業の進捗や状況に応じて、調査期間については前後、頻度については増減する可能性がある。

表 11.1-1 事後調査（大気質）の内容等

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	資材等の運搬に係る ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質 ・気象（風向・風速）	二酸化窒素については、簡易サンプラーを用いた簡易測定を実施する。 浮遊粒子状物質及び気象については、事業実施区域近傍の七郷測定局における観測データを整理する。	簡易サンプラーによる調査地点は、予測を行った2地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道	工事用車両のピーク日走行台数が最大（60 台/日・片道）となる工事着手後 16 ヶ月目（平成 26 年 5 月頃）の 1 週間を予定する。
	断面交通量	方向別、車種別に交通量を調査する。	調査地点は、以下の 2 地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道	工事用車両のピーク日走行台数が最大（60 台/日・片道）となる工事着手後 16 ヶ月目（平成 26 年 5 月頃）の 1 日（7 時から 18 時：作業時間帯の前後 1 時間）を予定する。
	資材等の運搬に係る ・工事用車両台数 ・工事用車両の走行経路	工事記録の確認並びに必要なに応じてヒアリング調査を実施する。	調査地点は工事用車両出入口とする。	工事用車両のピーク日走行台数が最大（60 台/日・片道）となる工事着手後 16 ヶ月目（平成 26 年 5 月頃）の 1 週間（各日 7 時から 18 時：作業時間帯の前後 1 時間）を予定する。
	資材等の運搬及び重機の稼働（複合影響）に係る ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質 ・気象（風向・風速）	事業予定地内の敷地境界において公定法による測定（二酸化窒素及び浮遊粒子状物質）を実施するとともに、予測対象地点においては、簡易サンプラーを用いた簡易測定（二酸化窒素）を実施する。気象については、事業実施区域近傍の七郷測定局における観測データを整理する。	調査地点は、以下の通りとする。 ・公定法：1 地点 ①事業予定地北側の敷地境界付近 ・簡易法：2 地点 ②七郷小学校 ③七郷中学校	重機の年間稼働台数が最大となる期間（工事着手後 11～22 ヶ月目）のうち、各調査地点に重機が比較的近接して稼働する工事着手後 22 ヶ月目（平成 26 年 11 月頃）の 1 週間を予定する。
	重機の稼働及び切土・盛土に係る ・粉じん	工事期間中の七郷測定局の風向・風速観測データを整理する。	事業予定地内とする。	工事期間中（平成 25 年 2 月頃～平成 27 年 1 月頃）の七郷測定局の風向・風速観測データを元に、強風時の現場内の対応について適宜ヒアリングを実施する。
	工事に対する環境保全対策の実施状況	工事記録の確認並びに必要なに応じてヒアリング調査を実施する。	事業予定地内とする。	ヒアリングは適宜実施する。特に、工事用車両のピーク日走行台数が最大となる工事着手後 16 ヶ月目（平成 26 年 5 月頃）、各調査地点に重機が比較的近接して稼働する工事着手後 22 ヶ月目（平成 26 年 11 月頃）は現地確認調査を行う。
供用による影響	資材・製品・人等の運搬・輸送に係る ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質 ・気象（風向・風速）	二酸化窒素については、簡易サンプラーを用いた簡易測定を実施する。 浮遊粒子状物質及び気象については、事業実施区域近傍の七郷測定局における観測データを整理する。	簡易サンプラーによる調査地点は、予測を行った3地点とする。 ・簡易法：3 地点 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道 ③市道長喜城霞目線沿道	基盤整備終了1年目の夏季（平成 27 年 7 月頃）及び冬季（平成 28 年 2 月頃）の各 1 週間、事業活動が定常となる時期の冬季（平成 30 年 2 月頃）及び夏季（平成 30 年 7 月頃）の各 1 週間とする。
	断面交通量	方向別、車種別に交通量を調査する。	調査地点は、以下の 3 地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道 ③市道長喜城霞目線沿道	上記測定期間中（夏季（平成 27、30 年 7 月頃）及び冬季（平成 28、30 年 2 月頃））の平日、休日各 24 時間とする。

※調査地域等は、図 11.1-1 に示す。

表 11.1-2 事後調査（騒音）の内容等

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	資材等の運搬に係る ・騒音レベル (L_{Aeq})	「騒音に係る環境基準について」(平成 10 年 9 月 30 日 環境庁告示第 64 号) 及び JIS Z 8731 : 1999「環境騒音の表示・測定方法」に準じる測定方法とする。	調査地点は、予測を行った 2 地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道	工事用車両のピーク日走行台数が最大 (60 台/日・片道) となる工事着手後 16 ヶ月目 (平成 26 年 5 月頃) の 1 日 (7 時から 18 時 : 作業時間帯の前後 1 時間) を予定する。
	断面交通量	方向別、車種別に交通量を調査する。	調査地点は、以下の 2 地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道	工事用車両のピーク日走行台数が最大 (60 台/日・片道) となる工事着手後 16 ヶ月目 (平成 26 年 5 月頃) の 1 日 (7 時から 18 時 : 作業時間帯の前後 1 時間) を予定する。
	資材等の運搬に係る ・工事用車両台数 ・工事用車両の走行経路	工事記録の確認並びに必要なに応じてヒアリング調査を実施する。	調査地点は、工事用車両出入口とする。	工事用車両のピーク日走行台数が最大 (60 台/日・片道) となる工事着手後 16 ヶ月目 (平成 26 年 5 月頃) の 1 日 (7 時から 18 時 : 作業時間帯の前後 1 時間) を予定する。
	重機の稼働に係る騒音レベル (L_{A5}) 及び資材等の運搬及び重機の稼働 (複合影響) に係る騒音レベル (L_{Aeq})	「騒音に係る環境基準について」(平成 10 年 9 月 30 日 環境庁告示第 64 号) 及び JIS Z 8731 : 1999「環境騒音の表示・測定方法」に準じる測定方法とする。	調査地点は、予測を行った 2 地点とする。 ①七郷小学校 ②七郷中学校	調査は、作業時間帯の前後 1 時間 (7 時から 18 時) とし、調査時期は、各調査地点に重機が近接して稼働する以下の時期を予定する。 調査地点① : 工事着手後 22 ヶ月目 (平成 26 年 11 月頃) 調査地点② : 工事着手後 23 ヶ月目 (平成 26 年 12 月頃)
	工事に対する環境保全対策の実施状況	工事記録の確認並びに必要なに応じてヒアリング調査を実施する。	事業予定地内とする。	ヒアリングは適宜実施する。特に、工事用車両のピーク日走行台数が最大となる工事着手後 16 ヶ月目 (平成 26 年 5 月頃)、重機の日稼働台数が最大となる工事着手後 22、23 ヶ月目は現地確認調査を行う。
	資材・製品・人等の運搬・輸送に係る ・騒音レベル (L_{Aeq})	「騒音に係る環境基準について」(平成 10 年 9 月 30 日 環境庁告示第 64 号) 及び JIS Z 8731 : 1999「環境騒音の表示・測定方法」に準じる測定方法とする。	調査地点は、予測を行った 3 地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道 ③市道長喜城霞目線沿道	基盤整備終了 1 年目の任意の時期 (平成 27 年 10 月頃) 及び事業活動が定常となる時期 (平成 30 年 10 月頃) の平日、休日各 24 時間とする。
供用による影響	断面交通量	方向別、車種別に交通量を調査する。	調査地点は、以下の 3 地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道 ③市道長喜城霞目線沿道	上記測定期間中とする。

※調査地域等は、図 11.1-1 に示す。

表 11.1-3 事後調査（振動）の内容等

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	資材等の運搬に係る ・振動レベル (L_{10})	「振動規制法施行規則」(昭和 51 年 11 月 10 日 総理府令第 58 号) 別表第二備考 4 及び 7 に規定される方法とする。	調査地点は、予測を行った 2 地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道	工事用車両のピーク日走行台数が最大 (60 台/日・片道) となる工事着手後 16 ヶ月目 (平成 26 年 5 月頃) の 1 日 (7 時から 18 時: 作業時間帯の前後 1 時間) を予定する。
	資材等の運搬に係る ・工事用車両台数 ・工事用車両の走行経路	工事記録の確認並びに必要なに応じてヒアリング調査を実施する。	調査地点は、工事用車両出入口とする。	工事用車両のピーク日走行台数が最大となる工事着手後 16 ヶ月目 (平成 26 年 5 月頃) の 1 日 1 日 (7 時から 18 時: 作業時間帯の前後 1 時間) を予定する。
	・断面交通量	方向別、車種別に交通量を調査する。	調査地点は、以下の 2 地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道	工事用車両のピーク日走行台数が最大 (60 台/日・片道) となる工事着手後 16 ヶ月目 (平成 26 年 5 月頃) の 1 日 (7 時から 18 時: 作業時間帯の前後 1 時間) を予定する。
	資材等の運搬及び重機の稼働 (複合影響) に係る ・振動レベル (L_{10})	「振動規制法施行規則」(昭和 51 年 11 月 10 日 総理府令第 58 号) 別表第二備考 4 及び 7 に規定される方法とする。	調査地点は、予測を行った 2 地点とする。 ①七郷小学校 ②七郷中学校	調査は、作業時間帯の前後 1 時間 (7 時から 18 時) とし、調査時期は、各調査地点に重機が近接して稼働する以下の時期を予定する。 調査地点①: 工事着手後 22 ヶ月目 (平成 26 年 11 月頃) 調査地点②: 工事着手後 23 ヶ月目 (平成 26 年 12 月頃)
	工事に対する環境保全対策の実施状況	工事記録の確認並びに必要なに応じてヒアリング調査を実施する。	事業予定地内とする。	ヒアリングは適宜実施する。特に、工事用車両のピーク日走行台数が最大となる工事着手後 16 ヶ月目 (平成 26 年 5 月頃)、重機の日稼働台数が最大となる工事着手後 22、23 ヶ月目 (平成 26 年 11 ~ 12 月頃) は現地確認調査を行う。
供用による影響	資材・製品・人等の運搬・輸送に係る ・振動レベル (L_{10})	振動レベルは、「振動規制法施行規則」(昭和 51 年 11 月 10 日 総理府令第 58 号) 別表第二備考 4 及び 7 に規定される方法とする。	調査地点は、予測を行った 3 地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道 ③市道長喜城霞目線沿道	基盤整備終了 1 年目の任意の時期 (平成 27 年 10 月頃) 及び事業活動が定常となる時期 (平成 30 年 10 月頃) の平日、休日各 24 時間とする。
	・断面交通量	方向別、車種別に交通量を調査する。	調査地点は、以下の 3 地点とする。 ①(仮)六丁目荒井東線沿道 ②県道荒浜原町線沿道 ③市道長喜城霞目線沿道	上記測定期間中とする。

※調査地域等は、図 11.1-1 に示す。

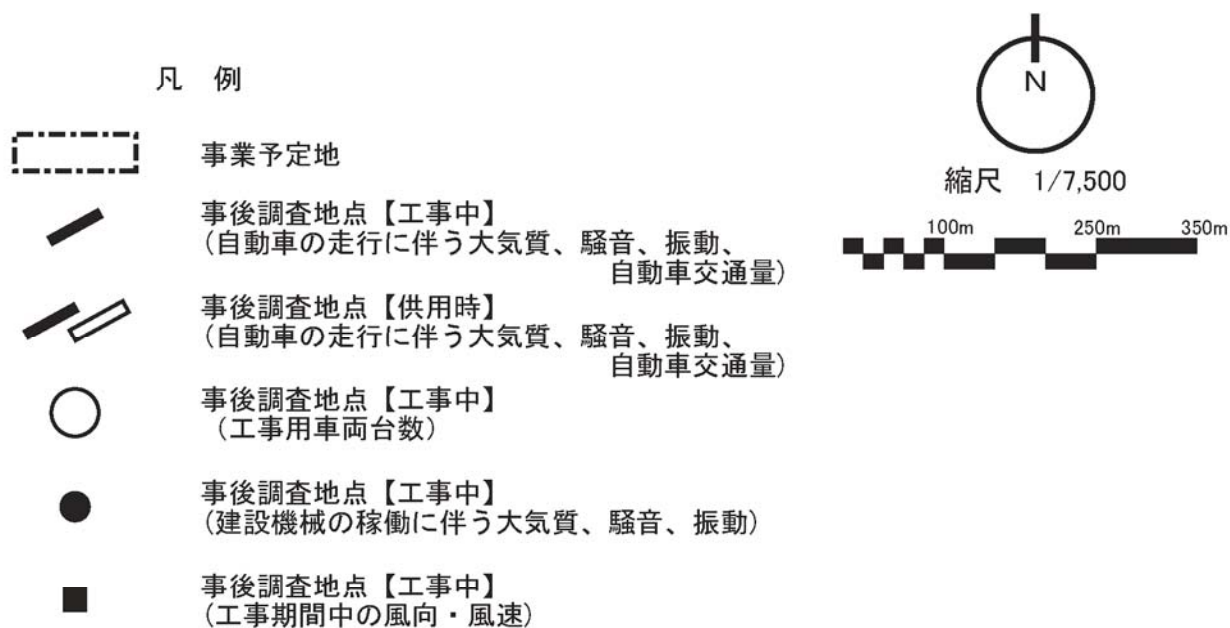
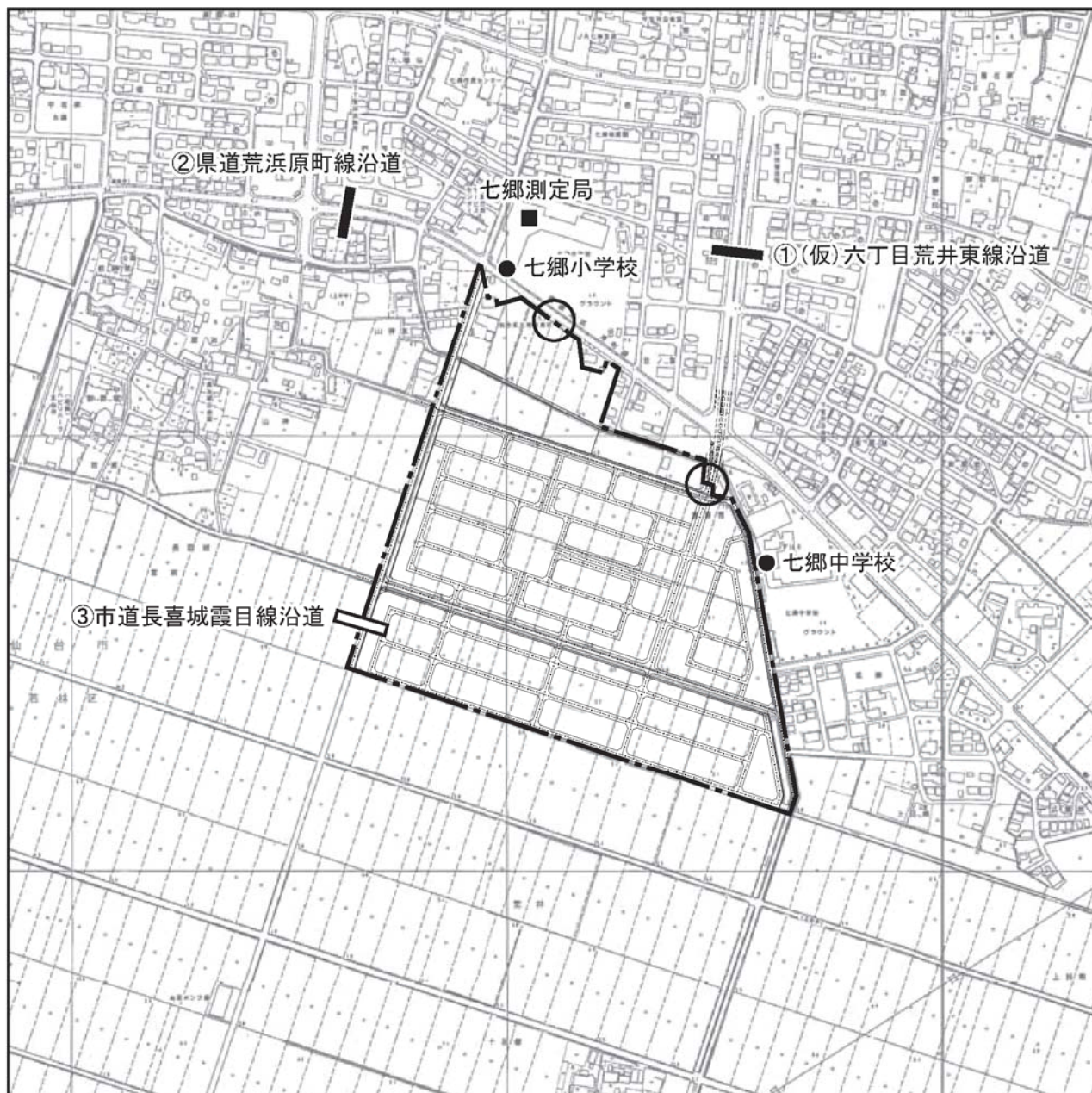


図 11.1-1 事後調査地点
(大気質、騒音、振動、自動車交通量)

表 11.1-4 事後調査（水質）の内容等

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	造成工事に伴う排水に係る ・浮遊物質量	「水質調査方法」（昭和46年9月30日環水管第30号）に準じた採取を行い、分析は、「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年環境庁告示第58号）付表8に準拠する。	調査地点は、予測を行った2地点とする。 ①霞目雨水幹線（仮設調整池の放流地点上流部） ②霞目雨水幹線（仮設調整池の放流地点下流部）	工事期間中の梅雨時期（平成25、26年の6月頃）、秋雨時（平成25、26年の9月頃）の降雨後、仮設調整池から霞目雨水幹線に放流する時点のそれぞれ2～3回とする（降雨状況により測定回数は変動の可能性がある）。

※調査地域等は、図 11.1-2 に示す。

表 11.1-5 事後調査（地形・地質）の内容等

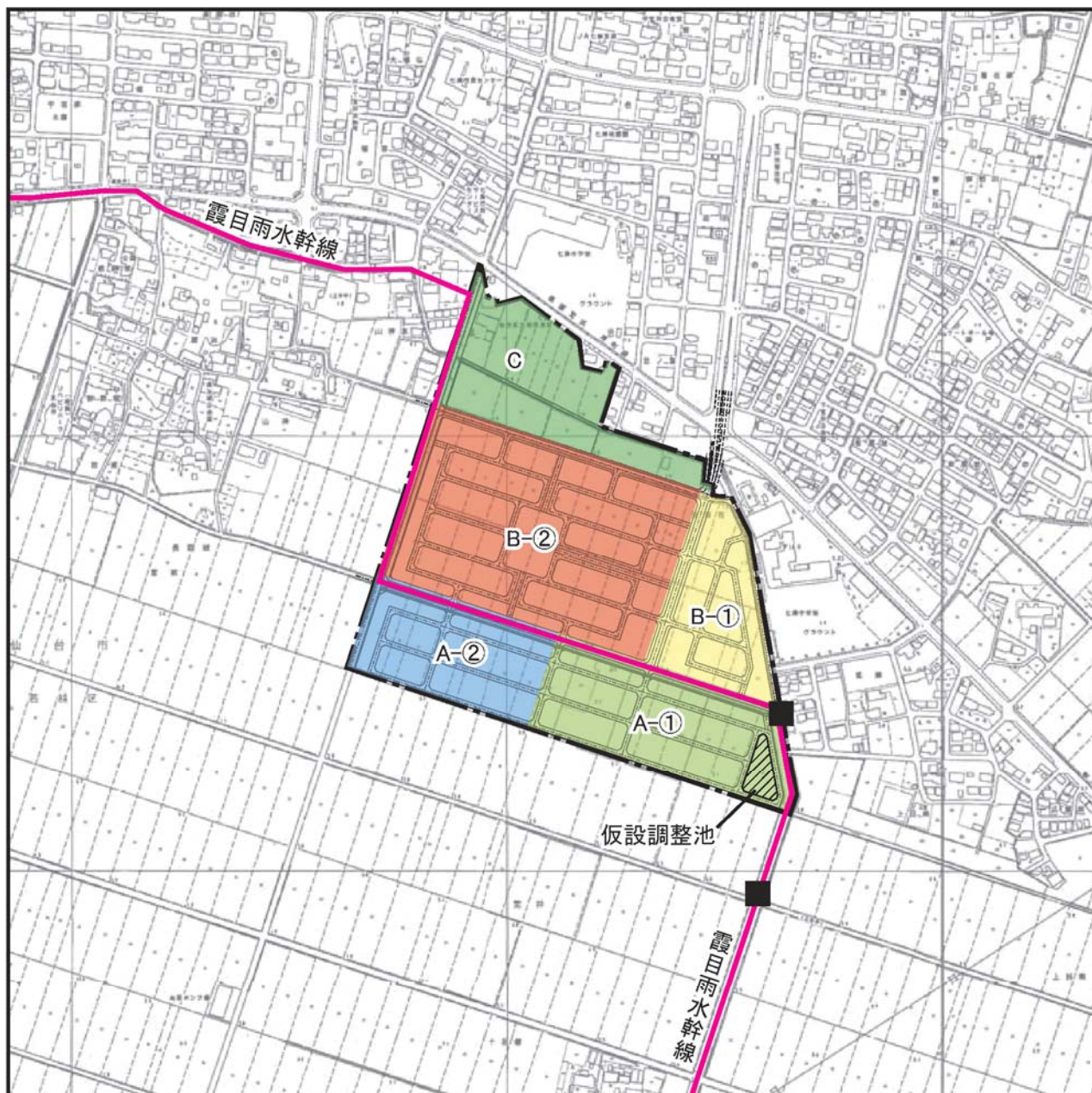
	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	・液状化の可能性がある砂層の分布範囲	補足のボーリング調査を実施する。	事業予定地内とする。	A-①、A-②、B-①、B-②、C 工区それぞれの盛土工事着工前に、1回実施する。
存在による影響	改變後の地形に係る ・土地の安定性 ・現況地形	設計図書・竣工図、出来形図により、改變後の地形の状況を整理する。	事業予定地内とする。	A-①、A-②、B-①、B-②、C 工区それぞれの盛土工事完了直後及び2ヶ月後を予定する。

※調査地域等は、図 11.1-2 に示す。

表 11.1-6 事後調査（地盤沈下）の内容等

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	切土・盛土・掘削等に係る ・沈下量の変化	水準測量結果及び設計図書を整理する。	事業予定地内とする。	A-①、A-②、B-①、B-②、C 工区それぞれの盛土工事完了直後から圧密度 90%を到達すると予測している3ヶ月後までの、毎月1回を予定する。
存在による影響	・建築基礎地盤の強度	サウンディング試験を実施する。	事業予定地内（2宅地に1箇所程度）とする。	平成26年9月頃から、宅地販売前に順次実施する。
	改變後の地形及び工作物等の出現に係る ・沈下量の変化	水準測量結果及び設計図書を整理する。	事業予定地内とする。	各工区の供用開始半年後にそれぞれ1回及び概ね1年後の平成28年、2年後の平成29年、3年後の平成30年に全工区1回を予定する。

※調査地域等は、図 11.1-2 に示す。



凡 例



事業予定地



事後調査地点（水質（濁水））



縮尺 1/7,500



※地形・地質、地盤沈下の事後調査は、
各工区の造成完了後に工区全域を対象に地形の確認や地盤高等の測量を行う。

図 11.1-2 事後調査地点（水質、地形・地質、地盤沈下）

表 11.1-7 事後調査（植物）の内容等

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	切土・盛土・掘削等に係る ・植物相の変化	踏査により、未施工工区内及び事業予定地周辺の植物相を把握する。	事業予定地（未施工区域）及び事業予定地の境界から 200m の範囲とする。	工事による影響を把握するため、工事期間中の夏季（平成 25 年 7～8 月頃）、秋季（平成 25 年 10～11 月頃）、春季（平成 26 年 4～5 月頃）を予定する。
存在による影響	改變後の地形に係る ・植物相の変化	踏査により、事業予定地及び事業予定地周辺の植物相を把握する。	事業予定地及び事業予定地の境界から 200m の範囲とする。	工事完了後の夏季（平成 27 年及び平成 30 年の 7～8 月頃）、秋季（平成 27 年及び平成 30 年の 10～11 月頃）、春季（平成 28 年及び平成 30 年の 4～5 月頃）を予定する。
	改變後の地形に係る ・植生状況の変化	事業予定地内の緑化（場所、代表的な樹種構成等）の状況及び植栽樹木の生育状況を把握する。	事業予定地内とする。	樹木の活力度が向上する工事完了後の夏季（平成 27 年及び平成 30 年の 7～8 月頃）を予定する。

※注目すべき種の個体確認には、十分注意して調査を実施する。

※調査地域等は、図 11.1-3 に示す。

表 11.1-8 事後調査（動物）の内容等

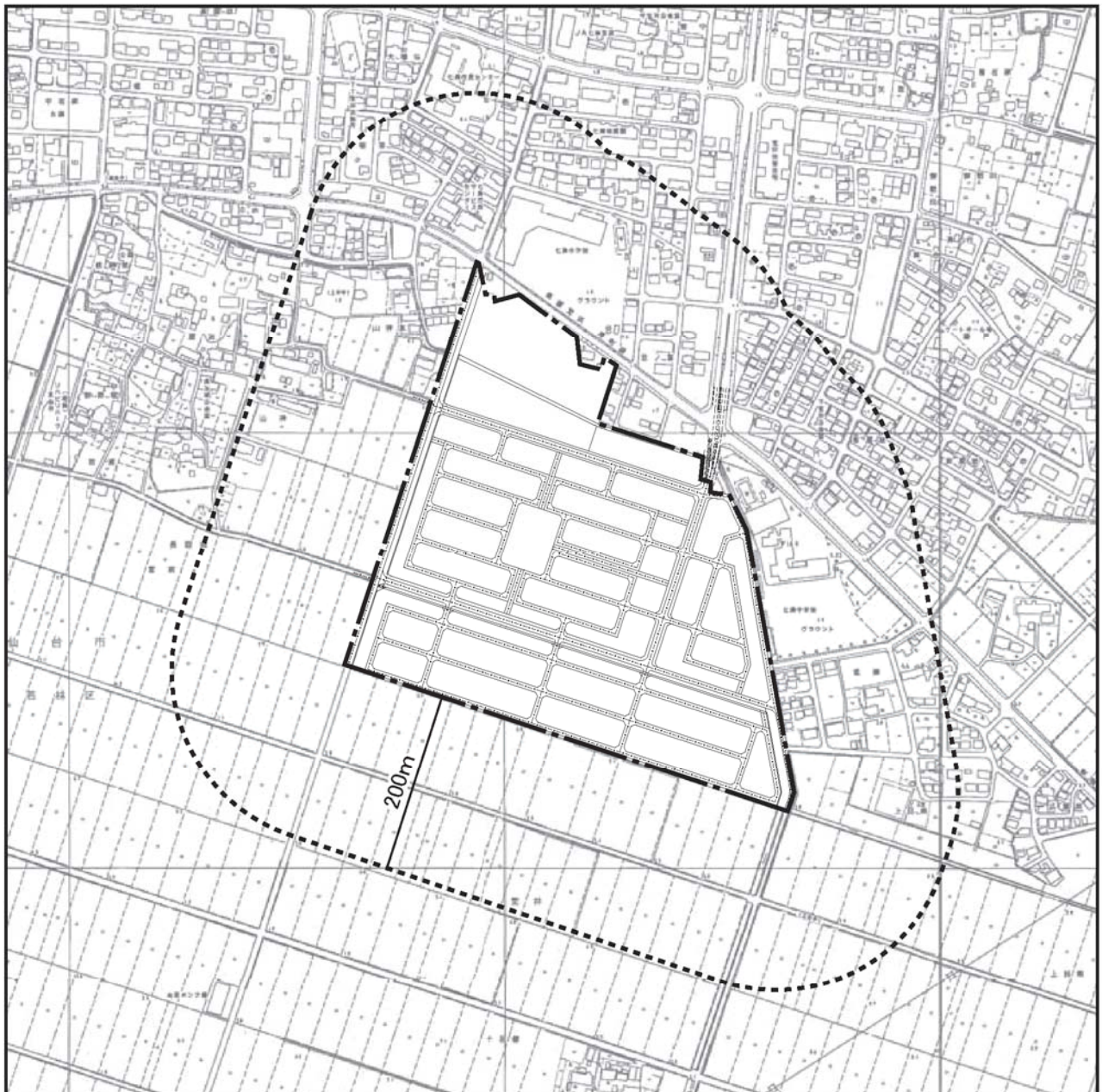
	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	資材等の運搬、重機の稼働及び切土・盛土・発破・掘削等に係る ・動物相の変化	事業予定地周辺を踏査し、動物相を把握する。	事業予定地の境界から 200m の範囲とする。	工事最盛期の 1 年目の夏季（平成 25 年 7～8 月頃）、秋季（平成 25 年 10～11 月頃）、冬季（平成 26 年 1～2 月頃）、春季（平成 26 年 4～5 月頃）を予定する。
存在による影響	改變後の地形に係る ・動物相の変化	調査地域を踏査し、動物相を把握する。	事業予定地の境界から 200m の範囲とする。	工事完了後の夏季（平成 27 年及び平成 30 年の 7～8 月頃）、秋季（平成 27 年及び平成 30 年の 10～11 月頃）、冬季（平成 28 年及び平成 30 年の 1～2 月頃）、春季（平成 28 年及び平成 30 年の 4～5 月頃）を予定する。

※調査地域等は、図 11.1-3 に示す。

表 11.1-9 事後調査（生態系）の内容等

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	資材等の運搬、重機の稼働及び切土・盛土・発破・掘削等に係る ・生態系の変化	植物・動物調査結果を踏まえ、工事期間中の生態系の状況を整理する。	事業予定地の境界から 200m の範囲とする。	工事最盛期の 1 年目の夏季（平成 25 年 7～8 月頃）、秋季（平成 25 年 10～11 月頃）、冬季（平成 26 年 1～2 月頃）、春季（平成 26 年 4～5 月頃）を予定する。
存在による影響	改變後の地形に係る ・生態系の変化	植物・動物調査結果を踏まえ、工事完了後の生態系の状況を整理する。	事業予定地の境界から 200m の範囲とする。	工事完了後の夏季（平成 27 年及び平成 30 年の 7～8 月頃）、秋季（平成 27 年及び平成 30 年の 10～11 月頃）、冬季（平成 28 年及び平成 30 年の 1～2 月頃）、春季（平成 28 年及び平成 30 年の 4～5 月頃）を予定する。

※調査地域等は、図 11.1-3 に示す。



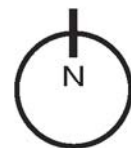
凡 例



事業予定地



事後調査対象地域



縮尺 1/7,500



図 11.1-3 事後調査地点（植物、動物、生態系）

表 11.1-10 事後調査（景観）の内容等

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
存在による影響	変更後の地形に係る ・眺望の変化の状況	主要眺望調査地点から写真撮影を行う。	予測を行った 5 地点とする。 ①七郷小学校前歩道 ②長喜城地区社前 ③荒井十呂盤付近 ④若林郵便局前 ⑤仙台東高校正門付近	工事完了後の夏季（平成 27 年 7 月頃）及び冬季（平成 28 年 2 月頃）とする。

※調査地域等は、図 11.1-4 に示す。

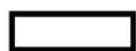
表 11.1-11 事後調査（廃棄物等）の内容等

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	切土・盛土・掘削等に係る ・廃棄物、残土	工事記録の確認並びに必要なに応じてヒアリング調査を行う。	事業予定地内とする。	工事期間全体（平成 25 年 2 月頃～平成 27 年 1 月頃）を予定する。
存在による影響	施設の稼働及び人の居住・利用に係る ・廃棄物の発生量	仙台市による収集実績等の整理とする。	事業予定地が属する地区全体とする。	工事完了後の 1 年間（平成 27 年度）を予定する。

※調査地域等は、図 11.1-4 に示す。



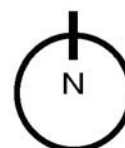
凡 例



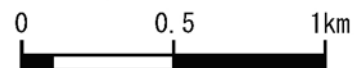
事業予定地



事後調査地点（主要眺望調査地点）



縮尺 1/25,000



- ・ 調査地域は図枠の範囲
- ・ 近景域（事業予定地中心から800m程度）
- ・ 中景域（事業予定地中心から800～1,500m程度）
- ・ 遠景域（事業予定地中心から約1,500m程度以遠）

※調査地点(①～⑤)は表11.1-10に対応する。

図11.1-4 事後調査地点（景観）

11.2. 事後調査スケジュール

環境影響評価事後調査スケジュールは、事業スケジュール及び工事工程を勘案し、表 11.2-1 のとおり計画した。

事後調査は、平成 24 年度末（予定）の基盤整備工事開始から平成 26 年度（予定）の基盤整備工事終了（一時終了）までを工事中の事後調査として、また、供用後 1 年目（概ね平成 27 年度（予定））及び区画整理組合解散前の供用時 4 年目（概ね平成 30 年度（予定））を供用時の事後調査として位置付け、実施する計画である。

なお、基盤整備工事の完了時期は、雨水排水を東部排水路に接続する平成 29 年度（予定）になる。仮設調整池は（仮称）東部排水路接続後に埋め戻し、基盤形成（約 0.22ha）するが小規模であること、既に事業予定地の大部分が宅地として供用されていることから、埋め戻し工事に伴う周辺への影響は殆どないと考えられる。そのため、供用後の事後調査として実施する。

事後調査の実施にあたっては、建築物の建設及び供用により生じる環境への影響を早期の段階から可能な限り回避又は低減できるよう、事後調査を最大限活用するものとし、必要に応じて事後調査計画を事業着手後であっても見直すこととする。

11.3. 事後調査報告書の提出時期

事後調査報告書を提出する時期は、表 11.2-1 に示すとおり予定する。

工事用車両走行台数及び重機稼働台数のピーク時における大気質・騒音・振動、廃棄物等に係る調査など、工事中に調査を行う項目については、工事期間がおおよそ 2 年であることから、原則 1 年単位で事後調査報告書としてとりまとめ、速やかに提出するものとする。

また、供用後に調査を行う項目については、供用後 1 年目及び供用後 4 年目の調査が終了した後に、それぞれ速やかに提出するものとする。

なお、事後調査により環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合には、関係機関と連携を図り、必要な措置を講ずるものとする。

表 11.2-1 環境影響評価事後調査スケジュール

工区区分	工種	年月 工事開始後月数	平成25年												平成26年												平成27年												平成28年												平成29年												平成30年												平成31年		
			2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	
準備工																																																																													
防災工																																																																													
Aー①	土工																																																																												
	法面(宅地整形)工																																																																												
	雨水排水工																																																																												
	汚水排水工																																																																												
	上水道(ガス)工																																																																												
	道路工																																																																												
Aー②	土工																																																																												
	法面(宅地整形)工																																																																												
	雨水排水工																																																																												
	汚水排水工																																																																												
	上水道(ガス)工																																																																												
	道路工																																																																												
Bー①	土工																																																																												
	雨水排水工																																																																												
	汚水排水工																																																																												
	上水道(ガス)工																																																																												
	道路工																																																																												
Bー②	土工																																																																												
	雨水排水工																																																																												
	汚水排水工																																																																												
	上水道(ガス)工																																																																												
	道路工																																																																												
C	土工																																																																												

[illegible]

※ 赤線、青線、緑線、橙線は、右記のとおり事後調査報告書にとりまとめる調査内容を示す。